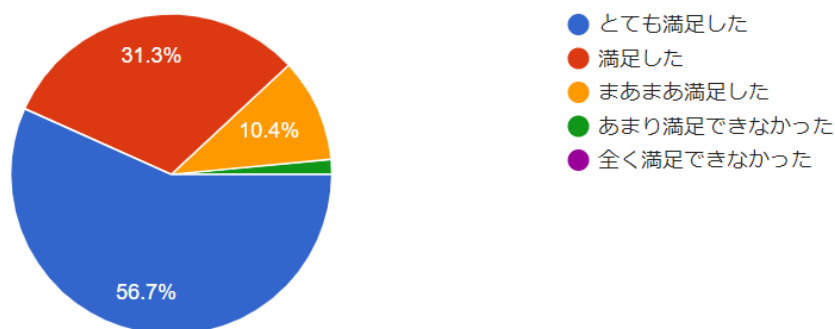


第5回プラスチック削減オンライン連続セミナーアンケート結果

本日のセミナーの満足度を5段階からお選びください

67件の回答



1	本日のセミナーの中で最も印象に残ったことは何でしたか
2	日本のリサイクルは見せかけ。3分の2が燃やされている。
3	削減(使わない)が重要だが、今の日本政府では企業の壁を破れない
4	SDGsの限界、暮らしのダウンサイズが必要だと思いました。
5	プラ問題が「格差貧困」にまでつながっていたことは驚きだった
6	抜本的変革が急務、ということを実感した
7	井田さんの豊富な情報量
8	水道料金とプラごみの関係
9	井田さんがとても丁寧に、それぞれに答えていらしたことや、熱心にこの分野に関わっていらしたことから、熱量を感じた。
10	生分解性プラスチックという言い方はやめていく方向にあること。海外のプラごみの現状。
11	国は動かない
12	地方自治体がキーという話。地方自治体の首長、地方の金融機関、市民でできること。希望を感じました。 このような勉強会を開催していただき、どうもありがとうございました！
13	チョイス&ヴォイス このキーワードはすごいですね
14	プラごみの多さ
15	モルディブなど、リゾート地として知られている地域のゴミ問題の現状

16	変革していくのはやはり地方の行動だという事がわかりました。今後私もできるだけ対話と連携を進めていきたいと思いました。
17	水道との関係地域の学習で使いたいです
18	ドイツでは廃棄物を出した企業が回収および中間処理をする義務を負っていること
19	choice & voice
20	生分解性プラスチックに対する安全面の現状。日本のリサイクル法が環境に対する真摯な取り組みとは全く言えないこと。
21	時系列の話から、世界の現状、そして今後と幅広くお話を伺って大変良かったです。 コンビニ・自動販売機文化からの脱却が必要とのお話が残りました。もちろんChoiceとVoiceも。大事ですよ！！
22	プラスチックによる環境汚染が進む中、自治体や個人でできる取り組みを示していただいたこと。プラから代替品に変えればよい問題でもないと感じかされたこと。
23	①バイオマス素材のレジ袋が、パームオイルが原料だということ ②地域の水道を優先して使う ③人権 貧困問題につながっていること
24	プラスチックごみ問題が貧困、低賃金労働、子供の労働、差別、格差、人権など様々な問題につながっていること。このような視点に改めて気づかされました。
25	海洋プラスチック問題が汚染、生物への被害だけでなく、貧困、格差、人権問題にも影響を与えている
26	プラスチック一括回収による自治体負担増と焼却量増の懸念
27	世界の現状と日本の現状が知れたこと、日本は使い捨て容器などの消費が多いこと
28	消費者としてすべきことは、CHOICE と VOICE
29	水道事業とペットボトル使用との関係という視点。現在の消費レベルのままではどのような代替品でも新たな環境問題が生じるということ。市民、首長、地方金融機関が一緒になって自治体からボトムアップして行くことが有効だということ。
30	一括回収が進められようとしているが、予想に反して焼却増加懸念があることを知り、今後さらに調査検討が必要であることが判ったこと

31	<p>市民が自治体を動かしていくこと、首長、地方議会を含めて動かしていくこと。</p> <p>ペットボトルを使用せず、公共水道を使用しようというキャンペーン。</p> <p>大いにこれからの活動の参考になりました。ありがとうございました！！</p>
32	<p>拡大生産者責任という制度が日本にあるという事。その制度を受けた企業の動きが余り一般に見えて来ない？</p>
33	<p>国のリサイクル政策行き詰まりの中で根本的対策は 削減+代替品への転換のインセンティブ、経済的手法による EPR の徹底が必要という所。</p>
34	<p>一般市民の Choice & Voice が重要であるとのご示唆をいただきましたが、及ばずながら出来ることを実践したいと思います。</p>
35	<p>世界的な観光地や中進国でのプラごみ放置の実態とペットボトル非回収率の実態本数</p>
36	<p>生分解性プラスチックがほぼ、全く同じ汚染につながることは構造上理解されることかもしれませんが、一般的には理解がしにくいです。</p> <p>専門家の方は、そうであるとするならどのように製品転換をすればよいと？</p> <p>消費者は難しくとも未来へ負荷のかかることは止めるしか術がないと考えますが、それでは多くの理解を頂けません。バイオのもの、パームオイルも CO2 排出は多いですし、カーボンニュートラルも汚染回避も実現が難しい。海をきれいにする行動を起こすことが必須と思いました。</p>
37	<p>「欧州で高まる EPR 強化を求める声」の中で、製品を作る企業からの声として 100 の企業の発信がありました。地球温暖化対策の取り組みとしても EPR が寄与するとしてメッセージを発信、心強く思います。その企業の製品を応援したいと心から思う消費行動こそ公平な役割分担のカタチだと考えます。</p> <p>生分解性プラスチックは、国連警鐘があつたにもかかわらず、国内ではレジ袋の無償配布が許されています。“日本のプラスチック政策は行き詰る”お話を合点がいきます。今後の課題として受け止めました。</p>
38	<p>EU での環境問題(プラ問題)に取り組む姿勢、特に企業自ら EPR へ取り組もうとする態度に比べ、日本のザルの様な容り法を始めとした国内の現状を顧みて、想像以上の格差に落胆した。日本の市民レベルでも、認識の差が大きいのでトレンドの SDGs に乗ってでもいいので、広がってほしいと思った。SDGs ついでに、17 Goals to Transform Our World が付くことで、このワードの意義が理解できた気がした。これも広く知ってほしいと思った。</p>
39	<p>バイオマス素材含有であっても、分解されないことには変わりはないという指摘</p>

40	<p>井田先生のお話をお聴きし、写真を拝見し、プラスチック削減には根本的な変革が急務であるとの思いを一層強くしました。中でも、最後のまとめで述べられた、対策に熱心な首長、議員を選出することの大切さ。年末の町長選にとりくみたいものです。</p> <p>中井様へ</p> <p>セミナー前夜にメール返信いただきありがとうございました。おかげで視聴できました。</p> <p style="text-align: right;">富田恒子</p>
41	「一般市民の Choice & Voice」
42	大事なのは、一般市民のチョイス&ボイス
43	<p>自治体や市民がどう動くかが鍵である。</p> <p>事前に、資料を送っていただき、講演が理解しやすかったです。</p> <p>資料の中に、1点だけ、カタカナのごみがありました。主催者から、事前に講師に修正要望をしていただきたかった。</p>
44	日本はなんちゃってリサイクルであるということ
45	<p>プラスチックによる環境汚染を防止するには、EPR が不可欠であることを具体的に説明され、また、EU ではその考え方に基づいた施策が講じられていることを紹介されており、説得力がありました。</p> <p>バイオマスプラスチックや生分解性プラスチックも必ずしも環境によいわけではないという指摘をされましたが、このような評価がもっと広まってほしいと思います。</p> <p>なお、コンビニがコスト削減になるのになぜレジ袋有料化に反対し続けたのか理解に苦しむとおっしゃっていましたが、それはこのような理由からです。レジ袋は本部がフランチャイズ加盟店に卸していたので、有料化すると使用量が減り、本部の収入も減るといった事情がありました。</p>
46	日本は、EPR の徹底が不十分で変革には程遠い状態にある。国や大企業は、動きにくいので自治体や地方金融機関を動かすことが大事。
47	環境省がレジ袋有料化を打ち出しても、業界の反対や抜け道で課題解決にはなっていないのではないかと？
48	日本のリサイクルごみの 57%が燃やされている事
49	合理的な理由がないのに 無料配布できるポリ袋など 日本の法制度の不合理性
50	当日アンケート送信しました

51	海外の廃棄物の処理の現状
52	自治体が主体的に動くことが 一番削減を進めやすいという 結論です
53	私の自治体は飯能市でして、「飯能水」と銘打って自販機で売っています。なので、自販機をなるべくなくしたいと常々ねおもっていたら、今日に講演会で少しヒントを得たような、、、もう一度確認しますが、下水処理と関連していると受け取っていいのでしょうか？ 講師へわからなかったらお聞きしたいです。
54	プラスチックごみの山とスキャベンジャー
55	日本のリサイクル達成率は、焼却が多くて問題であること。
56	すべてに根本的変革が必要という結論。
57	①ごみ問題は環境汚染になるばかりではなく、健康・衛生、貧困、格差、人権問題と密接につながり、弱い立場の人々にふりかかっている。 ②国内の拡大生産者責任の鈍化。 ③計り売りの商店も増えてはいるが、今の仕組みを change していこうという声をあげていくこと。
58	素晴らしいイベントの企画をありがとうございます。現場からのご報告と井田さんの分かりやすい説明、そして最新のニュースへの見方などが毎回勉強になります。 大手企業による代替素材について質問をさせて頂いたのですが、私自身難しいと思うのは素材議論と、素材が既存のビジネスモデルに取り入れられた場合の議論の棲み分けです。 例えば、ネスレは 2020 年、15 億ドル(約 1600 億円)規模の投資をリサイクルに投資し、266millionドル(約 300 億円)を代替素材に投資している一方、リュースにはたった 800 万ドル(約 9 億円)しか資金を投入していません。コカコーラも同じような感じかと思います。 なので、本来は優先されるべき 3R が企業戦略として無視され、single use の根本的な問題点に取り組む意志や戦略がないことがわかります。むしろ戦略としてはプラであれ他の素材であれ、引き続き single use のビジネスモデルを拡大していきたいということだと思います。ですので、代替素材の話をするときは、ローカルの素材を使った地産地消として地域的にプラ以外の素材を活用していくという話をしたい一方、結果的に「代替素材 OK」というメッセージに取られかねないようにしなければいけないので普段あまり話さないのですが、その点、井田さんの伝え方は大変参考になりました。

59	ペットボトル削減対策が結果的に水道事業の拡大につながるという点は、再発見でした。
60	<p>・ドイツの拡大生産者責任については一応知っていたつもりでしたが、日本の場合はだいぶ 違うことに驚きました。ドイツ式で行って欲しいと思いました。</p> <p>・お聴きしている間中、生産者側にも消費者側にも相変わらず危機意識が欠如していることが頭から離れませんでした。やはり全国民がそれぞれの立場でできることから行動に移すことが喫緊の課題だと思います。</p> <p>・すべてが有意義なお話で、これからの暮らしや地域の活動のよりどころになります。</p> <p>有難うございました。</p>

本日のセミナーの難易度を5段階からお選びください

67 件の回答

